追手門学院大学　校友会会報

第64号
平成20年(2008年)9月15日
発行者　〒567－8502
茨木市西安威 2－1－15
追手門学院大学校友会
会　長 平野 昌雄
電 話 072－643－6135
FAX 072－643－6099
©2007 編集責任 蟻柴 潤一

将軍山会館竣工 念願叶う



大学創立四〇周年・学院創立一二〇周年を記念して建設が進んでいた「将軍山会館」が六月二十八日(土)に竣工しました。

当日は、鈴木学院長をはじめ大学関係者、宮本輝氏ら校友会会員多数の参加を得て、定刻、一階正面の坂上楠生画伯の絵の除幕が行なわれた。

二号館から食堂へ続く坂道の右手に完成した白い瀟洒な建物に入ると、ゆったりとした空間のオープンカフェとなっています。南側の坂道に面したガラス戸と北側の中庭に面したガラス戸は全開でき、学生・卒業生・教職員のコミュニケーションの生まれる空間となっています。訪れた卒業生を歓迎してくれているかのように壁面には一号館に掲げられていた校章が飾られています。

オープンカフェから展示室に入ると、大学・学院の歴史と伝統を継承した展示スペースとなっており、石積みの壁で構成され、その壁の中に展示物が飾られています。開学当時からの景観や校舎の変遷、開学当時の制服や正門に掲げられていた大学銘板、天野初代学長の肖像絵等があり、開学当時を知っておられる卒業生には懐かしい空間となっています。

二階へ上がる階段の正面には一号館の絵が飾られており、二階の通路には講義ノートや卒業記念品等学生生活の変遷がわかるようになっています。歴代学長からのメッセージもあり、当時の時代背景や学生気質も伺うことができます。また、この通路の正面にある壁面には第一期卒業生・宮本輝氏の本の挿し絵を描いておられる坂上楠生氏の絵が飾られています。この絵は本学が舞台となった「青が散る」を基に描かれたもので背景には一号館がえがかれています。

その他二階には活躍する卒業生を紹介する展示コーナーや開学当時のキャンパスのジオラマ（模型）があり、一階・二階の展示コーナーにはそれぞれ液晶パネルが設置され、映像によっても過去や現在の大学の様子を見ることができます。



挨拶する宮本輝氏

これらの展示コーナーは、大学や学院の歴史や伝統を学ぶ場として授業の一環でも利用されています。その他中庭には季節の植物が配され、小さなステージもあり学生のデモンストレーション等の活動ができる場所にもなっています。会議室も二室あり卒業生や学生が自由に利用できるようになっています。

展示室を有する同窓会館は他の大学でもあまり例がなく、この機会に卒業生のみなさんも是非ともお立ち寄りいただき、また、この会館が母校の発展に繋がるようにゼミの同窓会やクラブのOB会等で利用していただきたいと思っています。

総会及びホームカミング・デーのご案内

＜アメ民 OB 演奏＞

竣工間もない将軍山会館で大学の「今と昔」をお楽しみ下さい。

開催日：2008 年 11 月 3 日（月・祝）
総　会：午前 11 時～（大学食堂棟 3 階）
ホームカミング・デー：正午～（同 1 階）
＊一部新聞広告等で開催日について誤った記載がありましたのでお間違いの無いようお願い申し上げます。

「むすぶ力」を掲げて

国際教養学部長　永吉　雅夫



本年四月より国際教養学部長の任にあります永吉でございます。

ご存じのように、国際教養学部は二〇〇七年四月に発足したばかりで、ようやく二年次生までを擁する段階にあります。文学部アジア文化学科の後身としてのアジア学科（入学定員一〇〇名）および英語文化学科の後身としての英語コミュニケーション学科（入学定員一五〇名）からなる学部です。

文学部は一九六六年の開学以来その四十年余の歴史のなかで、多くの先輩諸兄姉を社会有為の人材として輩出し、本学の大学としての風格を形づくってきました。開学時の東洋史学科を一九七〇年に東洋文化学科に、そして人間学部として社会学科と心理学科が分離したのが一九九五年、その後一九九八年に東洋文化学科をアジア文化学科、開学以来のイギリス・アメリカ語学文学科を同時に英語文化学科に改組したのをうけて、国際教養学部があります。めまぐるしい変化です。大学は自らの見識として、「変わらなくちゃ」の新陳代謝と「変わらない」ことの安心・信頼感と、その間で適切に自己更新してゆくことを求められているのでしょう。先輩諸兄姉のホームランドが失われたわけではけっしてありません。国際教養学部は文学部的なるものの継承のもとに、しかも文学部との差異をうちださなければなりません。国際化する社会、国際社会で活躍する現代的な教養人を育成するという学部の目的を示すために、以下のロゴマークを策定しました。



異なる社会や文化のあいだを「むすぶ力」を持った人材こそが、異文化理解、多文化主義の時代を自己を見失うことなく生きていけるのだと思います。あふれかえる情報の的確な選択が必須ですが、それは同時に、従来は無関係、結びつかないと思われていた情報をあらたな視点で「むすぶ力」を持った人材が、あらたな価値を創出して発信することでもあります。国際教養学部が提供する「ヒト・コトバ・ブンカ」をめぐる知の情報をとおして、学生本人はもちろん、人類の「未来」をきりひらいてほしい――国際教養学部はそんな「むすぶ力」をサポートする学部でありたいのです。

経済学部の現況

経済学部長　松本　直樹



二〇〇八年四月に経済学部長を拝命いたしました、松本直樹です。経済学部は、一九六六年に大学が創立されると同時に、文学部とともに発足いたしました。その後、大学はさらなる発展を目指して改組を繰り返し、現在では、経済学部・経営学部・心理学部・社会学部・国際教養学部の五学部体制となっています。二〇〇七年に文学部が国際教養学部となったため、開学当時の名称が現在まで残っているのは、経済学部だけとなってしまいました。その経済学部でも何度か改組が行われ、今では経済学科とヒューマンエコノミー学科の二学科体制になり、一七三四名の学生と三十名の教員を擁しています。

経済学部は、「経済知力」をキーワードとして、幅広い学識と合理的な判断力をもって活躍できる人材を育成しています。根幹となるカリキュラム体系は、現代の経済社会に関する理解を深めることができるよう多くの科目を提供し、学生の選択の幅をできるだけ広めるよう配慮したものとなっています。また、「特色ある教育」の一環として、学生向けの講演会を年に数回開催し、本年七月には、本学客員教授の太田房江氏（前大阪府知事）の講演会を開催いたしました。さらに一般市民向けの講演会としては、昨年、「少子化とヒューマンエコノミー」というテーマで三回連続の講演会を開催し、本年は、大阪城スクエアで「おうてもん塾」を実施いたしました。

少子化の波は、本学にも押し寄せており、他大学と同様、入試状況は余談を許さないものがあります。しかし、上記のような活動を地道に続けていくことによって、展望は開けてくるものと確信しております。校友会の皆様にも、なお一層のご支援を賜りますよう、よろしくお願い申しあげます。

心理学科同窓会のお知らせ

心理学科では、二〇〇六年からホームカミング・デーにあわせて、心理学科の同窓会を開催しております。二〇〇八年も同じ要領で第三回目の同窓会をおこないます。ホームカミング・デーの大学全体での催しに引き続き、午後二時から懐かしの二号館において心理学科同窓会を開催いたします。今回も、学科の現状の紹介や、卒業生の方々の近況報告などを予定しております。

まだ、卒業生全員に個別にお知らせできる体制にはなっておりませんので、この紙面をお借りしての連絡になりますが、それぞれで連絡の付けられる方々にお声をかけていただいて、多数ご参加いただきますようお願い申し上げます。

また、この件に関してのお問い合わせは心理学科実験準備室（Tel.〇七二―六四一―九六一九）までお願いいたします。

社会学部支援同窓会ソキウス総会のおしらせ

社会学部支援同窓会ソキウス会長　新野　三四子

社会学科卒業生のみなさん、お元気にお過ごしでしょうか。

今年も、十一月三日(月祝)ホームカミング・デーの日に、社会学部支援同窓会ソキウスの第三回総会並びに懇親会を、下記の要領にて開催いたします。

開催日時
二〇〇八年十一月三日(月祝)
十三時三十分頃より（ホームカミング・デーパーティ終了後）
開催場所　大学食堂棟3F
スタッフルーム
会費　　〒二、〇〇〇
連絡先
shinno@res.otemon.ac.jp
（会長のアドレスです）

準備の都合上、ご参加頂ける方はご連絡ください

母校は一二〇周年記念事業の最終段階を迎え、あの一号館も建替え工事中です。そして、学食への坂道右手には、わたし達卒業生の居場所として「将軍山会館」（校友会館です）が建設され、一号館の壁面につけられていた校章をはじめ、開学当時のキャンパスの模型など、当時を偲ばせる懐かしい品々が展示されています。

新しいキャンパスとともに、開学当時を思い起こしてしばしタイムスリップできる空間を味わいがてら、社会学科卒業生同士の旧交を温めに、同窓の方をお誘い合わせの上ぜひご参加ください。

＊校友会総会が十一時から、ホームカミング・デーパーティは十二時から開催されます。ソキウス総会はその後、引き続き開催いたしますので、よろしくお願いいたします。

追手門学院大学のキャリア教育――「独立自彊・社会有為」の人材育成に向けて

キャリア開発部長　三川　俊樹

少子・高齢化社会の到来、産業・経済の構造的変化、雇用の多様化・流動化、就業をめぐる環境の変化などの影響を受け、「自分に自信がない」「将来に希望を持てない」「人間関係やコミュニケーションが難しい」など、職業意識が希薄で、社会的自立に消極的な若者が増加していることが指摘されています。

その解決のための方策の一つがキャリア教育ですが、追手門学院大学では、二〇〇四年度からスタートさせた「キャリア形成支援プログラム」が、優れた先進的な取り組みとして評価され、二〇〇七年度の文部科学省の現代GPに採択されました。これは、就職や進学を含めて、社会的・職業的な自立に必要な知恵や力は、入学前から卒業後まで系統的に培われなくてはならないという視点に立った、計画的・継続的なプログラムであり、一人ひとりの発達に応じた個別相談（キャリア・カウンセリング）を重視していることが特徴です。

ご承知の通り、追手門学院の建学精神および教育理念は、「独立自彊」（自主・自由・自立）の精神のもとに個性尊重の教育を行い、時代の要請に応え得る「社会有為」の人材を育成することにありますが、その意義を確実に継承しつつ、さらに行動力・実践力を重視した取り組みを、本学のキャリア教育として展開しているところです。

卒業生の皆様には、これまでにも学生や大学院生の就職、インターンシップ、キャリアスタートプランでのご講話など、一方ならぬお力添えをいただき感謝いたしております。これからの時代を生きる若者たちのキャリア形成のために、今後ともあたたかいご理解とご支援を賜りますよう心からお願い申し上げます。

平成20年度　収支予算書

平成２０年４月　１日から
平成２１年３月３１日まで

単位　円

科　目	予　算　額	前年度決算額	差　異
収入の部			
会費	47,800,000	51,560,000	△ 3,760,000
受取利息	120,000	129,210	△ 9,210
雑収入	0	0	0
大学周年事業寄付金	0	0	0
宮本輝ミュージアム開設協賛金	0	0	0
校友会会員名簿関係	0	0	0
義援預り金からの繰入収入	0	0	0
財団設立準備基金取崩	0	189,000,000	△ 189,000,000
次年度以降計上会費	0		0
収入の部　合計	47,920,000	240,689,210	△ 192,769,210
支出の部			
一般経費			
人件費	0	0	0
会報印刷費	1,500,000	1,177,974	322,026
その他印刷費	300,000	29,000	271,000
通信費	7,500,000	5,258,220	2,241,780
交通費	200,000	0	200,000
消耗品費	20,000	15,922	4,078
会議費	80,000	40,175	39,825
賃借料	65,000	41,370	23,630
慶弔費	200,000	73,500	126,500
名簿完備費	1,000,000	501,492	498,508
事務費	10,000	5,880	4,120
用品費	0	0	0
雑費	100,000	102,935	△ 2,935
公租公課	20,000	25,839	△ 5,839
卒業記念品代	8,000,000	0	8,000,000
広報費	400,000	118,125	281,875
謝金	200,000	66,315	133,685
入学記念品代	1,500,000	928,800	571,200
創立120周年記念事業費	1,000,000	0	1,000,000
学友会活動援助費	500,000	130,750	369,250
大学祭援助費	200,000	200,000	0
支部設立準備費	100,000	0	100,000
支部援助費	200,000	86,450	113,550
国際交流費	150,000	0	150,000
寄付金	200,000	189,200,000	△ 189,000,000
事務処理負担金	0	0	0
財団設立準備基金繰入	20,000,000	20,099,696	△ 99,696
〔予備費〕	100,000	0	100,000
支出の部　合計	43,545,000	218,102,443	△ 174,557,443
当年度収支超過額	4,375,000	22,586,767	△ 18,211,767
前年度繰越収入超過額	47,747,234	25,160,467	22,586,767
前年度繰越支出超過額	0	0	0
翌年度繰越収入超過額	52,122,234	47,747,234	4,375,000

平成19年度　決算書

貸借対照表

平成２０年３月３１日

校友会　（単位　円）

資産の部			
科　目	本年度末	前年度末	増　減
固定資産	490,281,536	659,181,840	△ 168,900,304
その他の固定資産	490,281,536	659,181,840	△ 168,900,304
財団設立準備基金（特定預金）	490,281,536	659,181,840	△ 168,900,304
流動資産	98,038,158	74,761,327	23,276,831
現金預金	98,038,158	74,761,327	23,276,831
資産の部　合計	588,319,694	733,943,167	△ 145,623,473

負債の部			
科　目	本年度末	前年度末	増　減
流動負債	50,290,924	49,600,860	690,064
未払金	2,490,924	860	2,490,064
前受金	47,800,000	49,600,000	△ 1,800,000
負債の部　合計	50,290,924	49,600,860	690,064

基本金の部			
科　目	本年度末	前年度末	増　減
財団設立準備基金	490,281,536	659,181,840	△ 168,900,304
基本金の部　合計	490,281,536	659,181,840	△ 168,900,304

消費収支差額の部			
科　目	本年度末	前年度末	増　減
翌年度繰越 消費収入 超過額	47,747,234	25,160,467	22,586,767
消費収支差額の部　合計	47,747,234	25,160,467	22,586,767

科　目	本年度末	前年度末	増　減
負債の部、基本金の部及び			
消費収支差額の部　合計	588,319,694	733,943,167	△ 145,623,473

平成20年5月3日

追手門学院大学　校友会　平成１９年度決算

会計監査報告

公正なる監査の結果、別紙諸計算書は、平成１９年４月１日より、

平成２０年３月３１日までの校友会の保有する財産及び収支の状況

を正しく示しているものと認め、ここにご報告いたします。

追手門学院大学校友会

監　事　古橋忠男

監　事　青木敬

資金収支計算書

平成１９年４月　１日から
平成２０年３月３１日まで

校友会　単位　円

収入の部			
科　目	予　算	決　算	差　異
一般収入	49,600,000	51,560,000	△ 1,960,000
会費収入	49,600,000	51,560,000	△ 1,960,000
資産運用収入	36,000	129,210	△ 93,210
受取利息配当金収入	36,000	129,210	△ 93,210
前受金収入	51,480,000	47,800,000	3,680,000
前受金収入	51,480,000	47,800,000	3,680,000
その他の収入	200,000,000	347,411,873	△ 147,411,873
財団設立準備基金からの繰入収入	200,000,000	347,405,558	△ 147,405,558
預り金収入	0	6,315	△ 6,315
資金収入調整勘定	△ 49,600,000	△ 49,600,000	0
前期末前受金	△ 49,600,000	△ 49,600,000	0
前年度繰越支払資金	74,761,327	74,761,327	0
収入の部　合計	326,277,327	472,062,410	△ 145,785,083

収支計算書

単位　円

収入の部			
科　目	予算額	決算額	差　異
会費	49,600,000	51,560,000	△ 1,960,000
受取利息	36,000	129,210	△ 93,210
雑収入	0	0	0
大学周年事業寄付金	0	0	0
宮本輝ミュージアム開設協賛金	0	0	0
校友会会員名簿関係	0	0	0
財団設立準備基金取崩	200,000,000	189,000,000	11,000,000
次年度以降計上会費	0	0	0
収入の部　合計	249,636,000	240,689,210	8,946,790
支出の部			
一般経費			
会報印刷費	1,500,000	1,177,974	322,026
その他印刷費	300,000	29,000	271,000
通信費	5,800,000	5,258,220	541,780
交通費	20,000	0	20,000
消耗品費	20,000	15,922	4,078
会議費	30,000	40,175	△ 10,175
賃借料	65,000	41,370	23,630
慶弔費	20,000	73,500	△ 53,500
名簿完備費	1,600,000	501,492	1,098,508
事務費	10,000	5,880	4,120
用品費	0	0	0
雑費	10,000	102,935	△ 92,935
公租公課	20,000	25,839	△ 5,839
卒業記念品代	8,600,000	0	8,600,000
広報費	400,000	118,125	281,875
謝金	30,000	66,315	△ 36,315
入学記念品代	1,000,000	928,800	71,200
学友会活動援助費	0	0	0
学友会関係援助費	500,000	130,750	369,250
大学祭援助費	200,000	200,000	0
大学祭行事参加費	0	0	0
支部設立準備費	100,000	0	100,000
支部援助費	200,000	86,450	113,550
国際交流費	150,000	0	150,000
寄付金	200,200,000	189,200,000	11,000,000
財団設立準備基金繰入	20,000,000	20,099,696	99,696
〔予備費〕	100,000	0	100,000
支出の部　合計	240,875,000	218,102,443	22,772,557
当年度収支超過額	8,761,000	22,586,767	△ 13,825,767
前年度繰越収入超過額	25,160,467	25,160,467	0
翌年度繰越収入超過額	33,921,467	47,747,234	△ 13,825,767

新役員候補者推薦のお願い

校友会選挙管理委員長　石川　徹

現在の校友会活動をお世話している現役員の任期が平成二十一年三月末をもって満了します。

本会会員は新しく役員を選出しなければなりません。

本会会則（本会会則抜粋と選挙細則は別ページに掲載しています）第九条の第六項に従い、平成二十一年（二〇〇九年）四月より、平成二十五年（二〇一二年）三月末迄の四年間、本会をお世話戴く役員（評議員）候補の推薦をお願いします。

学校法人追手門学院は、平成二十年（二〇〇八年）に創立百二十周年を迎えました。

母校の大学も四十年の時を経て大きく様変わりしていく大切な時期です。その伝統から培われた心の絆を糧に、胸を張って誇れる母校により高めていくために、今後の発展を望み私たちの校友会を支えて戴く奉任活動、クラブ、同好会などから、同窓生や学友、仲間たちをご推薦下さるよう、お手数ですがお願い申し上げます。

新役員選出の手順

1. 同封しております所定の「新評議員推薦用紙」（コピー不可）に必要事項をご記入の上、推薦者ご自身の印鑑を押して下さい。
2. 封筒に「校友会選挙委員会」宛と記入して「推薦用紙」を封入して、八十円切手を貼って投函して下さい。（ファックス・持参不可）
3. 新評議員推薦の締め切り日は、十一月七日（金）［創立百二十周年記念式典の日］までの消印有効で、本会の選挙管理委員会に届くように送付して下さい。
4. 選挙管理委員会では、委員立ち会いのもとに開封して卒業期別に推薦を受けた評議員候補者名簿を作成し、候補者に受諾の有無の確認を行います。その上で名簿を校友会会員に送付致します。
5. 評議員候補者名簿をご覧いただき、異議申立があれば、選挙管理委員会に異議申立の理由を封書にて期日までに郵送していただくようお願いいたします。（期日は送付時に連絡します。）
6. 異議申立も無く、定められた期日が過ぎれば新評議員を発表致します。

送付先
〒567-8502
追手門学院大学内　校友会
選挙管理委員会宛

支部活動の支援について

本会の会員は全国各地で活躍していますが、支部としては、東京・東海・中四国・九州の各地区と職域として追手門学院があります。各地区の支部活動については、活動をより活性化させるため、協力していただける方を募っておりますので、お力添えいただける方は、事務局までご一報ください。また、校友会役員会としても出来る限りのサポートを行う所存ですので、会員の方のより一層のご協力をお願いします。

今年も奉拝船

学問の神様、天満宮の祭りに今年も、追手門学院が奉拝船を出した。校友会も平野会長らが乗船し、学院をPRした。



卒業生教員対象 入試説明会のご案内

ホームカミング・デー会場におきまして教育界でご活躍されている卒業生の皆様を対象に入試説明会を開催することとなりました。

説明会は入試相談を兼ねた個別の説明形式で、本学の入試制度の実状および二〇〇九年度入試の概要等をお話しさせていただきます。また、貴重なご意見等もお聞かせ願えればと存じます。ホームカミング・デーへのご参加と併せまして入試説明会へのご参加をよろしくお願いいたします。

開催日時
十一月三日（月）
十二時～十三時三十分
開催場所
ホームカミング・デー会場（食堂棟一階に入試説明コーナーを設置）

追手門学院大学校友会会則抜粋

第４章　役員および役員会

第８条　本会に次の役員を置く。
1．会長
2．副会長　若干名
3．常任理事会議長
4．常任理事　若干名
5．理事若干名
6．評議員　若干名
7．監事　若干名

第９条　役員の選出および任務は次の通りとする。
1．会長は理事会で選出され、会を代表する。
2．副会長は、会長が理事中より委嘱し、会長を補佐し、会長が事故あるときはその代理をする。
3．常任理事会議長は、常任理事中より互選し、常任理事会・理事会を統括しその決定事項を発動し本会の会務一切の責任を持つ。
4．常任理事は、理事中より互選し理事会の決定事項を執行し、また本会の事務を時担処理する。
5．理事は、評議員中より互選し本会の会務を決定する。
6．評議員は、正会員中各卒業年度・各学部よりの所定の選挙方法によって若干名を選出し会務の協議に当る。
7．監事は正会員中より理事会が選出し、本会会計の監査を行う。

第10条　役員の任期は４年とし、再任を妨げない。

追手門学院大学校友会評議員選挙細則

本会評議員の選出について、本会会則の第21条に従って、ここに選挙細則を定める。

［選挙権者と被選挙権者の範囲］

第１条　本会の役員選出の基盤となる評議員選挙については、会員の推挙推薦によって、評議員候補者を選び、会員の同意を得て決定するものとする。
第２条　本会会員中、正会員のみが本会評議員の推挙推薦権を持つ。
第３条　本会会員中、正会員のみが本会評議員候補者として、本会会員の推挙推薦権者より、推挙推薦を受けることができる。
第４条　前条の本会評議員候補者の内、次に該当する会員は、本会正会員より推挙推薦があったとしても本会評議員候補者としての資格を失う。
①本会終身会費を納めていない会員
②選挙管理委員会が不適当と判断し、それを理事会が了承した会員

［選挙管理委員会］

第５条　本会評議員選出に際しては、選挙管理委員会を設置する。
第６条　選挙管理委員長は、正会員中より常任理事会が委嘱する。選挙管理委員長には、被選挙権はない。
第７条　選挙管理委員会委員は、選挙管理委員長が委嘱する。
第８条　選挙管理委員会は、本会正会員からの評議員候補者の推挙推薦に関しては、公正かつ厳正に事務を行う。
第９条　選挙管理委員会は、選挙の中身を公開する。但し、会員の人権に関わる内容については公開しない。

［選挙方法］

第10条　本会正会員は、事前に送付した「評議員候補者推挙推薦書」の所定の項目に記入の上、捺印し、封筒に入れ、所定の期日までに選挙管理委員会宛に郵送すること。郵送以外の方法による推挙推薦は認めない。
第11条　選挙管理委員会は、期日を定めて、次の事を行うこと。

①本会正会員から所定の用紙を用い、郵送されてきた「評議員推挙推薦書」に記載されている事項を検証して、評議員候補者一覧表を作成する。
②本細則第４条による評議員候補適格者に、本会評議員の資格を受けるかどうかについての問い合わせを行う。受諾を拒否されたときは、評議員候補者一覧表から削除する。
③評議員候補者一覧表を、速やかに本会正会員に公示し、意義申立てを求めることとする。
④前項３の結果を、速やかに本会理事会に報告することとする。

第12条　前条の取り扱いを総て修了した段階で、選挙管理委員会は評議員候補者に対し、「評議員就任承諾書」を送り、その回答を本会会員に告知するものとする。

付則
1　この細則は平成８年（１９９６年）６月３０日の本会理事会で決定し、同年９月１日より施行する。
2　この細則の変更は、本会理事会の３分の２以上の同意を得なければならない。
3　この細則は平成２０年（２００８年）８月３１日の本理事会で決定し、同年９月１日より施行する。

創立一二〇周年記念行事と今後の予定

創立一二〇周年記念事業事務局

追手門学院大学校友会の会員の皆様方には、平素より追手門学院・大学に対して、教育・研究事業の発展のためにご協力ご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

学院創立一二〇周年記念事業・大学四〇周年記念事業として、中央棟・六号館の建設を柱としたキャンパス整備が行われ、大学全体の景観が美しく一新されました。また、大学校友会団体様より約二億円のご寄付をいただき、建設資金に充当したことにより、校友会館「将軍山会館」をオープンすることができました。会員皆様方には、心より御礼申し上げます。これらの周年事業をより発展・成功させるために、総合募金の推進を行っております。今回、大学校友会会報に趣意書一式を同封させていただき、その主旨説明にもございますように一万円募金運動を現在行っております。この機会に是非ともご協力をお願い申し上げます。

今後の予定につきましては、創立一二〇周年記念DVDの制作、創立一二〇周年記念学院総合案内の発行、創立一二〇周年記念写真カレンダーの制作、「追手門学院の履歴書（文化人編）」ならびに「大阪城プロジェクト」の図鑑の出版や追手門プレゼンツ・ワンコインコンサート、第1回文章表現コンクール「青が散る」表彰式などを予定いたしております。

また、創立一二〇周年記念事業の最大のイベントである、創立一二〇周年記念式典が大阪城ホールにて、二〇〇八年十一月七日(金)十三時三十分に開式(十二時三十分開場)されます。

この創立一二〇周年記念式典は、記念事業の集大成といたしまして、「オール追手門」を合言葉に園児・児童・生徒・学生・教職員・保護者・卒業生・卒業生の保護者及び家族や知人・関係企業の皆様をお招きして六〇〇〇人規模の式典を計画いたしております。

学院卒業生におかれましては、当日受付も行いますので、是非ともご参加していただきますようご案内申し上げます。

学院創立一二〇周年記念
課外活動支援者への感謝状
贈呈式のご案内

本学課外活動に対し、長年に渡りお世話になっている外部からの支援者の方に、大学としての感謝の意を表し、感謝状と記念品を贈呈いたします。

開催日時
十一月三日（月・祝）
十一時三十分～十二時

開催場所
食堂棟　地下1階

「オール追手門展」を式典当日十一時三十分より会場の北口周辺で開催いたします。

是非、ご覧ください。

九州支部総会・懇親会に出席して

常任理事　森　嘉一

今回の総会は六月二十一日午後二時より大分市内の『味のわらじや』という居酒屋で行われました。

会場の『味のわらじや』にはすでに九州支部の皆さんが揃われており、大変恐縮した次第です。我々とは別に平木社会学部長が学長の代理として出席していただきました。それも奥様同伴でです。嬉しかったです。先生も前日から大分に来られており、別府温泉に宿泊されていたということでした。

大分事務局の清原先輩、九州支部長の山﨑健一さん、平木先生、平野会長とそれぞれ挨拶のあと、山﨑支部長から活動報告、乾杯、懇親会へと移りました。支部の参加者は六人で、福岡県から五人、大分から一人でした。総勢十一人で活発に意見の交換を行いました。皆さんがとても大学を思ってくださっていることが感じられ、九州にはこんなにも大学思いの校友がたくさんおられ嬉しく思い、大学に奉職する者として大きな責任を感じた次第です。今回出席させてもらって本当によかったと思います。次回は福岡で行うことが決まりました。次回も是非とも出席させていただきたいと思います。そのときには、大学として誇れる何かをお伝えできたらとおもいます。例えば、大学は他大学に先駆けこんなことをやっているから誇りにしてくださいというような！

少しオーバーかも知れませんが、追大の将来はこのような卒業生にかかっているかも知れません。少しでも誇れる追大にするため、ご協力をお願いします。

編集後記

さて、会館は出来たが生かすも殺すも我々しだい。

仏像つくって、魂入れずとならないように喝！　（潤）

追手門学院大学　校友会会報

第66号
平成20年(2008年)12月25日
発行者　〒567-8502
茨木市西安威2-1-15
追手門学院大学校友会
会　長　平野　昌雄
電話　072-643-6135
FAX　072-643-6099
©2007　編集責任　蟻柴　潤一

次期新役員候補者推薦は四十三名

選挙管理委員長　石川　徹

去る十一月七日消印有効で校友会会員から郵送いただきました「新評議員推薦用紙」の封書数は五十六通でした。

十一月十五日（土）の午前十時から母校（将軍山会館）に於て立会人の監視のもと開票。

送達票の内、二票が、自分で自分を推薦と押印洩れがあり無効。有効数は五十四票分。内、重複十一票で被推薦者数は四十三票となりました。

今後の手続きは役員の候補者を全校友会会員に本会報第六十六号にて告知し異議申立ての手続きに入ります。被推薦者に対して異議があれば理由をお示し戴いて封書で郵送して下さい。

期限は会報六十六号発行の日から二十日以内に選挙管理委員会へ到着するようご投函下さい。

異議申立て期限を経過後評議員就任承諾書を送付、その承諾返送をもって評議員役員となります。

――・――・――・――

本会新役員改選に伴い、多数の推薦をいただきありがとうございました。

ご協力のほど厚くお礼申し上げます。

被推薦の新役員候補者一覧表

氏名	卒年・学部科
岡田　宏	(七十・経経)
奥村　啓二	(七十・経経)
桑原　栄門	(七十・経経)
平野　昌雄	(七十・経経)
萬代　治	(七十・経経)
大橋　陽一	(七一・経経)
小坂井俊夫	(七一・経経)
林田　隆行	(七一・文社)
福井　教男	(七二・経経)
佐々　進一	(七三・経経)
西崎　泰司	(七三・文東)
永井　秀明	(七四・経営)
蟻柴　潤一	(七四・文社)
山口　人士	(七五・経経)
下村　忠功	(七五・経営)
生川紳一郎	(七五・経営)
贊田　肇	(七五・経営)
吉田　浩幸	(七五・文社)
岡本　眞弘	(七六・経経)
高木　憲彦	(七六・経経)
中井　隆	(七六・経営)
森　嘉一	(七六・経経)
古橋　忠男	(七六・経営)
美濃岡伸也	(七六・経営)
宮本　幸治	(七六・文英)
八木　彰彦	(七七・経経)
藤尾　正弘	(七七・経営)
川崎　昭一	(七七・文心)
青木　敬	(七七・文社)
井上　晶子	(七七・文社)
藻川　芳彦	(七七・文社)
越智　英二	(七七・文英)
岡本　一美	(七八・経営)
廣内　裕子	(七八・文英)
喜多　博	(七九・経営)
渕上　嘉彦	(八〇・経経)
恒川　鈴子	(八〇・文心)
渡辺　一則	(八一・文社)
野出　靖宏	(八三・経経)
大塚　高司	(八九・経営)
高本　優一	(九一・経経)
鈴木　圭史	(九八・経営)
矢島　秀和	(〇三・文東)

（以上四十三名・敬称略）

総会開く

ホームカミング・デーに合わせて開催している二〇〇八年度校友会総会が、大学祭中日の十一月三日、午前十一時より大学食堂三階において開催された。

定例より、二〇〇八年度事業報告、決算報告が、続いて二〇〇九年度事業計画案、予算案が審議され、いずれも原案通り可決承認された。

事業計画では、本年六月に竣工しました将軍山会館の効率的な運用などについて説明があった。



ホームカミング・デー
今年も盛大に開催

大学祭期間中に開催されるホームカミング・デーは今年も、中日の三日、大学食堂一階で開催された。

ホームカミング・デーは正午より始められ、在学生やOB、OGをはじめ教職員が集い、昨年を上回る五〇〇余名が参加した。

理事長、学長、校友会長の挨拶に続き祝宴が始められアメリカ民謡研究会OBの「きたむらいづみ&フレンズ」によるミニコンサートが行われました。

また、将軍山会館内では現役ギター部の演奏会も開かれホームカミング・デーに花を添えた。

平野会長は「今年も例年にも増して多数の参加を得てうれしい限りです。来年も。もっと集まれるよう頑張りたい」と話している。











大学の思い出 眠ってません?

将軍山会館が開館し、学院・大学歴史展示室が設けられました。

ここには追手門学院や大学に関する歴史資料が展示されていますが、更なる充実を図りたいと考えております。

皆様方のご家庭で眠っている大学や学院に関する史資料がございましたらご協力をお願いいたします。

収集する史資料は、教科書、配付プリント、ノート、クラブ活動記録、受験票、合格通知、制服、クラブのユニホーム、指定体操服、ゼミ旅行写真などです。

ご寄贈いただいた資料は追手門学院大学の歴史を物語る大切な史資料として末永く保存させていただきます。

よろしくお願いいたします。

問い合せ先

追手門学院大学　庶務課

〇七二―六四一―九六六八

学院創立一二〇周年式典で 六三〇〇人が祝う
創立一二〇周年記念事業事務局

追手門学院は創立一二〇周年を記念して大阪城ホールにて式典を開催し、ご来賓や在校生・卒業生ら約六三〇〇人が一二〇年の節目を祝いました。

オープニングは小・中・高・大学生による合同チアリーディング部八十人によるシャープな演技で開幕し、続いて本大学のOBの北林さんが演出されたご祝儀舞(連獅子)が披露されました。



また、式典で大木理事長並びに鈴木学院長が『追手門ビジョン一二〇』をもとに「未来を創造していく子どもを教育するという社会的使命を果たす」、「卒業生から愛され社会から評価される学校となるよう努力したい」などと式辞が述べられました。

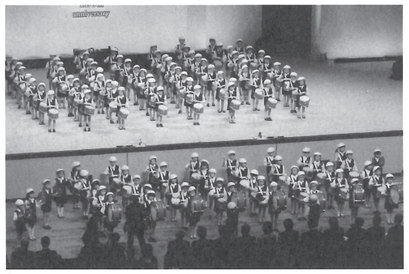
つづいて、館内の大画面には卒業生である作家の宮本輝氏、堺屋太一氏、キャスターの福留功男氏、進藤晶子さんが在校生へのエールとして、「日本はこれから困難な時代。皆さんの力で幸せ大国にしてください。」と熱いメッセージが寄せられました。

舞台中央の大型画面では、一二〇周年DVD『未来は私たちの手に』と学院将来計画『追手門ビジョン一二〇』が上映されました。

その後、学校出演としては、両中・高、大学生一四〇人による吹奏楽団の演奏、中国武術(大学生)、鼓隊(幼稚園)の演奏などが行われました。練習に練習をかさねた成果が十二分に発揮されたすばらしい舞台でありました。

この式典に際して、校友会より祝花を出して式典を祝いました。





O-TEMON GAKUIN 120th anniversary

校友会の皆様
「一二〇周年、一万円募金にご協力を!」

謹啓　時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素は追手門学院・大学に対して格別のご厚情にあずかり厚く御礼申し上げます。

さて、創立一二〇周年記念事業総合募金につきましては、二〇〇五年一〇月から実施しておよそ三年が経過しようとしています。

これまでに卒業生及び卒業生の保護者・教職員・在学生・企業・団体などから多くのご芳志をいただいており心より感謝いたしております。ここに皆様方のご厚情に対して感謝の意を表します。

大学では、卒業生の方が気軽にお立ち寄りいただける同窓会館「将軍山会館」が六月に竣工いたしました。この将軍山会館には、オープンカフェや学院の歴史展示物などのコーナーがあり、卒業生とその家族が集い、在校生・保護者・教職員との触れ合いの場になっております。

また学院では十一月七日大阪城ホールにて六千三百人の関係者が参加された「創立一二〇周年記念式典」をはじめとして、数多くの催し物を開催しています。毎年開催されています「ホームカミングデー」には、多くの卒業生が参加されております。今年も大学祭期間中の十一月三日(月)文化の日に開催されました。

ぜひ、年に一度といわず何度でも母校にお帰りいただきたいと思います。

大学では新1号館が二〇〇九年夏に竣工予定となっています。

また、全キャンパスリニューアルに伴う教育施設に係わる設備等(IT設備や最新設備・備品の設置、教具の更新など)の充実を図らねばなりません。

そのために学院教職員をはじめとして、数多くの卒業生及び卒業生の保護者、在学生、企業の皆様方からの支援をお願いしなければなりません。

つきましては、卒業生の皆様には、何かと社会情勢や経済状況の厳しい折とは存じますが、追手門学院大学の更なる発展の一助として、「一二〇周年、一万円募金」(金額にかかわらずありがたくお受けいたします。)にご協力をくださいますようお願い申し上げます。

なお、万一、すでにご寄付賜りました方にこのご依頼が届きました場合は、何卒失礼をご容赦ください。

最後になりましたが、皆様のますますのご健勝並びにご活躍をお祈り申し上げます。

謹白

二〇〇八年十二月吉日

学校法人　追手門学院
理事長　大木　令司
学院長　鈴木多加史
校友会会長　平野　昌雄

恩師を訪ねて(4)
キャンパスの思い出

岸　昌三



私は、一九六六年（昭和四一年）の本学創立以来、経済学部に教員として勤め、昨二〇〇七年三月、退職した。

本学は、現在工事中の場所にあってすでに取り壊された旧の一号館でスタートし、年を追って二号館、三号館、四号館などの順に建設が進んだ。初期の頃、かの有名な評論家大宅壮一は、週刊誌の大学探訪のような記事で本学を「ホテル大学」と評したものである。まだ、ほかにいくばくも建物が建っていなかった頃のことである。一号館の内装を見てのことであろう。確かに当時の建築レベルからみると、デラックスに映ったのであろう。私たちもそう思ったものである。

時を経て、近年になり、キャンパスの大改造が手がけられて、運動場・駐車場などが一新、さらにキャンパスの高台も一新して新館が聳え立ち、すでに動いている。かつて「ホテル大学」といわれた旧一号館も姿を消して、現在も工事が進行中である。

初期の頃は、スクールバスの到着するグランドのレベルから、みんな将軍山の坂道を上って高台の校舎にたどり着いたものである。その頃のこと、登校してきた老教授が「将軍山を上れなくなると、やめなければならない」などと冗談を飛ばしていたことを思い出す。今では高台までエレベーター、エスカレーターが通じた。

思い起こせば、これまでも多少の間隔はあれ、創立以来、継続的に建設の槌音を聞いてきたものである。そうしたなかで学生は学園を巣立って、すでに政界、業界、官公、教育、文壇、芸能、海外など各界で活躍する卒業生の多きを聞くのは真に喜ばしい。

建設が進み、キャンパスが往年の自然を多少失ったのは、古きを知る者としては一抹のさびしさを禁じえない。しかしこれも時代の流れであり、しかも施設は確実に充実したのだから、教育・研究を充実させることで克服されてゆくものであろう。そうなることを願うものである。

活躍する校友(5)



株式会社　船井総合研究所
上席コンサルタント
執行役員
唐土　新市郎
（24期生）

私は十六年前に追手門学院大学を卒業しました。そして、新卒で船井総合研究所という経営コンサルティング会社に入社しました。おかげさまで三十四歳のときに執行役員を拝命しました。

実は、この船井総合研究所に入社した縁は、追手門学院大学だったのです。大学二回生の頃、茨木図書館に行ったときのことです。ビジネス関係の書棚に近づいたとき、ある一冊の本が目に飛び込んできました。ご存知の方も多いと思いますが、中村天風先生の「盛大な人生」という本でした。一万円ほどの高価な本ですが、ペラペラと興味を持ちつつ読んでいました。その本の巻末には、中村天風先生を支持している人の中に船井幸雄という船井総合研究所の創業者の名前があったのです。その他にも松下幸之助さんや稲盛和夫さんなどそうそうたる名前がありましたが、なぜか船井幸雄の名前だけが、これまた目に焼きついてしまったのです。

大学二回生のときにこの縁がなければ、今どんな仕事をしているのだろうか、とふと思い考えることがありますが、今の経営コンサルティングという仕事を天職だと思うくらい気にいっております。

これまで二千人以上の経営者に出会ってきました。本も十八冊ほど書いてきましたが、そろそろお世話になった人達に恩返しをする時期が来たかなと感じております。具体的には、無料で私の経営レポートをＦＡＸで配信しております。もしご希望の方がおられればお気軽にお申し込みください。

ＦＡＸ
０６―６３７７―４２７９
kara@funaisoken.co.jp

経営コンサルティングという仕事を通じて、世の中に少しでも役に立つ人間になりたいと思う今日この頃です。

最後になりましたが、追手門学院大学というご縁をいただいたことにとても感謝します。そして、校友会の皆様におかれまして、益々のご活躍を心から念じております。

東京支部総会開く
新支部長に樋口氏を選出

諸井　美代子
（5期生）



平成二十年十一月八日（土）、お茶ノ水にあります“銀座アスターお茶の水賓館”にて東京支部総会と懇親会が数年ぶりに開催されました。

大阪から会長はじめ五名の来賓の方々を迎え、東京在住の十四名が集い総勢十九名で午後一時よりの開催となりました。

同現東京支部長の口村さんの開会の辞の後、東京支部の報告と今年度からの新東京支部長をお引き受け下さる樋口さんの御挨拶がありました。



その後、ご来賓の挨拶と致しまして常務理事の中嶋先生より頂戴し、その中で前日の十一月七日（金）に行われました大阪城ホールでの追手門学院一二〇周年の式典の模様とホームカミング・デーのご説明が有り又、現在の校友会会員の総数四万人強居ります事、その中で把握しております関東在住者の数が約三〇〇名程という事など詳しくお話を伺うことができました。



ご来賓の平木社会学部長により本学の今後の大阪本部と東京支部の更なる活発をめざすお言葉で皆で乾杯を致しました。

乾杯の後、食事と歓談の時間となりその間に中嶋先生より産経新聞に載りました追手門学院一二〇周年の式典の記事のコピーを全員で戴き母校の長い歴史、それと共に母校より著名な卒業生が単立っていることにあらためて皆感動致しました。

暫くしましてからお食事中に各出席者の自己紹介となり、その後は皆席を離れそれぞれに各人で親しく話に花をさかせておりました。中には十六期離れた先輩、後輩の間柄で同じ会社に居らしゃる方々も御参加されておられました。皆さんそれぞれご立派な会社に入られ、ご活躍されておられるのは本当に喜ばしいことです。

年代を越えて同じ学び舎で学んだ者同士、相通じる物を感じながら話がつきないまま閉会の時は近づき、学院歌斉唱、出席者全員の集合写真撮影と続き、平野会長の閉会の辞となりました。閉会の一本締めの後、最後に樋口新東京支部長の今後の校友会東京支部の益々の発展をめざしてのお言葉を頂戴し、又の再開を皆で楽しみに今年度の東京支部総会と懇親会を終えました。



帰り際に大阪からお持ち頂いた各出席者へ追手門学院大学のご本や資料等を頂戴致しました。大変楽しく充実した二時間半の総会と懇親会となりました。

ソキウス
第三回総会が開催されました！

社会学部支援同窓会ソキウスの第三回総会並びに懇親会が、さる十一月三日（月祝）十三時三十分頃より、母校食堂棟三階、スタッフルームで開催されました。

十二時から、開催されたホームカミング・デーのパーティ終了後、場所を食堂棟の三階へ移し、総勢二十六名の参加で、第三回総会が開催されました。

今年度の総会では昨年度の活動報告と決算承認、来年度の事業計画と予算案、そして役員改選に伴い、新役員が選出されました。

新野会長の挨拶の後、議事を進行し、総会の終了後、追手門学院八十周年記念のビデオと大学案内最新ビデオで、母校の昔と今の変遷を確認しました。その後、参加者全員で今年九月に竣工した校友会館である将軍山会館を見学させて頂き、一二〇周年記念事業ご担当の宮本さんのご説明で懐かしい制服や、展示品、開学当時の写真などをみて、しばし学生時代の楽しかった場面を思い起こし、癒しのひと時をすごさせていただきました。

全員で二次会も企画していましたが、参加者が少なかったこともあり、今回は残念ながら校友会館の見学で解散ということになりました。〆野新会長は、楽しいソキウスにしたいと言われています。新年度の活動には、今年卒業された皆さんも含め、一人でも多くの方に参加いただきたいと思っていますので、よろしくお願いいたします。

新役員

会長	〆野　洋司	（6期生）
副会長	吉田　浩幸	（6期生）
副会長	藻川　芳彦	（8期生）
会計	青木　敬	（8期生）
会計監査	野出　容子	（14期生）
幹事長	福田えりか	（32期生）
	林田　隆行	（2期生）

会長のコメント

この度、ソキウスの第二代会長に就任いたしました〆野洋司です。

「新野前会長の業績を踏襲しつつ、楽しいソキウスを創りたいと思います。皆様のご支援とご協力をいただきます様よろしくお願いいたします。」

日々発信しているソキウスブログもぜひご覧下さい。
http://space.geocities.yahoo.co.jp/gl/socius_ogu2006

心理学科同窓会
二〇〇八を開催しました

心理学科では今年度も、十一月三日（月）のホームカミング・デーの催しに引き続く形で、心理学科の同窓会を開催しました。今回は一期生はじめ五四名の卒業生と小花和昭介名誉教授が参加して下さいました。そこに学科教員十三名が加わり、楽しいひとときを過ごすことができました。

まず、井上学部長の挨拶に始り、各教員の自己紹介と近況報告を行った後、最近のキャンパスの変化を紹介し、さらに色々なゼミの同窓生代表に近況報告をいただきました。

この同窓会もこれで三回目となり、当初はとにかく始めることに主眼を置いて行ってきましたが、より充実したものにするためにも、そろそろ改善を加えるべき時期にさしかかっていると思われます。今回の参加者からもご意見をいただいておりますが、まず参加を呼びかける範囲の拡充を図らねばなりません。また、いままでは勤務歴が長く、昔の同窓生とも顔なじみの教師が中心に準備をしていますが、昔からの教師はだんだん減っていく運命にありますから、企画の中心をより若い世代の教師に引き継いでいく必要があります。これは、単に事務を引き継ぐだけではなく、同窓生という繋がりを引き継がねばならないことですから、時間をかけておこなわざるを得ないことでありましょう。

課題は小さくありませんが、将軍山会館という場所もできあがったことでありますし、学科としては同窓生の繋がりをさらに強めていきたいと考えております。卒業生の方々からのご意見、ご助言があれば是非お寄せいただきたいと考えております。



二〇周年記念行事の
報告と今後の予定

創立一二〇周年記念事業の建設関係では、幼稚園建替、両中・高建替、大学中央棟・六号館・将軍山会館などの新築や建物の改修が既に行われ、残すところ小学校西館建設が二〇〇九年一月に竣工、大学では一号館が二〇〇九年夏に竣工予定となっています。

また、今年度の記念行事関係では、最大のイベントである創立一二〇周年記念式典が大阪城ホールで開催され、六三〇〇名の関係者を迎えましたが、滞りなく終えることができました。

また、「オール追手門展」が毎日新聞社大阪本社のオーバルホールで七月一八日～二〇日の三日間開催され、約千名の参加者がありました。天神祭りの船渡御には、第五回「学院奉拝船」が出船し、学院創立一二〇周年を祝う仕掛け花火が大川にあげられました。大阪城プロジェクトでは、養老猛氏の講演会・シンポジウムや朝日新聞社内のアサコムホールで写真展が開催されました。出版物では「追手門学院の履歴書」（企業人編）、「大阪城ネイチャーウオッチング」、大阪城プロジェクト調査報告書などが発行されました。

今後といたしましては、小学校西館と大学1号館の竣工式と完成披露祝賀会が予定されています。また、十一月七日に開催された創立一二〇周年式典の中継撮影の編集と学院内での上映会を予定しております。出版物では、創立一二〇周年記念事業の過去五年間の総括を報告書にまとめ発行する予定です。この報告書は、今後の周年事業と学院の歴史として、永続記録するために必要なものと考えます。

これらの記念事業につきましても、卒業生のお力添え（ご協力）とご協力があってこそ成し得たものと思います。今後に付きましても、追手門学院・大学を卒業生が支えていただける環境を多方面から学院が作り上げていくことが望まれ望むことと考えております。よろしくお願いいたします。

（二〇周年記念事業事務局）



受験を希望される方に
願書を配付

二〇〇九年度の入試日程は次の通りです。

卒業生のみなさまで受験期のお子さまのおありの方の願書請求をお待ちしております。

入試広報課
〇七二―六四一―九一六五

入試種別	学部または学科	出願期間	試験日・書類審査日	合格発表日
一般Ａ日程（試験日自由選択制）	全学部	2009.1. 6(火)～ 1.16(金)【郵送のみ】 2009.1.19(月)【本学窓口受付日】(午後3時まで)	2009.2. 5(木) 2009.2. 6(金)	2009.2.16(月)
一般Ｓ日程（選択方式）	全学部	2009.1. 6(火)～ 1.16(金)【郵送のみ】 2009.1.19(月)【本学窓口受付日】(午後3時まで)	2009.2. 7(土)	
一般Ｓ日程（英・国方式）	全学部	2009.1. 6(火)～ 1.16(金)【郵送のみ】 2009.1.19(月)【本学窓口受付日】(午後3時まで)	2009.2. 8(日)	
センター試験利用Ａ日程	全学部	2009.1. 6(火)～ 1.16(金)【郵送のみ】	独自試験は課さない 2009.1.17(土) 2009.1.18(日)	2009.2.16(月)
一般Ｂ日程	全学部	2009.2.12(木)～ 2.19(木)【郵送のみ】 2009.2.20(金)【本学窓口受付日】(午後3時まで)	2009.3. 4(水) 午前	2009.3.11(水)
論文Ｂ日程	全学部	2009.2.12(木)～ 2.19(木)【郵送のみ】 2009.2.20(金)【本学窓口受付日】(午後3時まで)	2009.3. 4(水) 午後	2009.3.11(水)
センター試験利用Ｂ日程	全学部	2009.2.12(木)～ 2.19(木)【郵送のみ】	独自試験は課さない (センター試験利用Ａ日程欄参照)	2009.3.11(水)

追手門学院大学校友会の皆様へ

経営学研究科長　篠原　健

皆さんの実社会での、経営者やプロフェッショナルとしての経験や課題を、大学院で学び研究して論文にしてみませんか。課程を修了すれば、経営学修士や博士の学位を取得することが出来ます。社会的な信用度が増しますし、なにより学問ぶことは楽しいものです。私の存じ上げている経営者の方で、リタイアされた後七十歳にして博士号を取得された方がおられます。

社会人の方には、実社会での知識や課題に基づくテーマを持ち込んでいただければ指導が可能になりますので、大学院担当の教員の専門領域とうまく合致するきます。経営学研究科の先生は、学部と兼務ですがカバーする範囲の広いのが特色です。経営学、会計学、法学、情報、起業、国際マーケティングなどの分野に加え、最近注目されているビジネス心理の分野での最先端の先生も加わりました。

現実の問題としては、社会人の専門家を受け入れるための課題はありますが、物事を前に進める中で解決してゆきたいと思います。

ご興味のあるかたは、気軽にご相談ください。入試件や、長期履修制度などの本来の文意が変わる事はありませんでした。

正しくは『奉仕活動に、是非とも校友会会員の多くを各卒業期、学科、ゼミ、クラブ』でした。

(takshino@res.otemon.ac.jp)

お詫びと訂正

前号六ページ「新役員候補者推薦のお願い」のなか一段目の最終行から二段目最初の間に欠落がありました。お詫びして訂正いたします。なお、この欠落により本来の文意が変わる事はありませんでした。

＊他にも大学院には経済学研究科経済学専攻、心理学研究科心理学専攻、文学研究科社会学専攻・中国文化専攻・英文学専攻が設置されています。

「青が散る」Award
大学からも受賞

二〇〇周年事業の一環として行なわれていた追手門学院第一回文章表現コンクール「青が散る」アワードの表彰式がこのほど行なわれ『短詩』の部で、優秀作品賞に経営学部一年の伊藤佑樹さん、審査員特別作品賞に社会学部一年の西本美香さん、佳作に卒業生の春名弥生さん、福山侑希さんが、また『作文・エッセイ』の部では優秀作品賞に経営学部四年の今谷建三さん、佳作には心理学部三年の高山直樹さん、文学部四年の春岡本麻里さん、卒業生の名弥生さんが受賞した。

このコンクールは大学一本輝氏にちなんで設けられたもので、今回の審査員には同じく卒業生作家の服部泰平氏も名を連ねている。

このコンクールは大学の教育研究所が主となって企画をしており、水藤所長は『非常に有意義だった。これからも続けていきたい』と語っている。

編集後記

どうしよう。いやあ困った。三十行ほどが埋まらない。

長い長い編集後記でお許しを請おう。

会報の記事や写真は大学庶務課で集めていただき、段組み校正を一日でやっている。

より今回の様に足らずや余りがおきる。加筆や削除を繰り返して収める。これがまあ大変なのである。

好きワープロはなぜだか数本のHBと赤エンピツ、消しゴムに昭和に入っている。

ワープロでは『無』としても消してしまう書き損じと消しゴムのカスを集めながら、悦に入っているひとときさ。

もなく満足やね。

【潤】